第５回高等研究院レクチャーを開催

第５回高等研究院レクチャーが、６月24日（木）、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて開催されました。

今回は、「思想史とアダム・スミス－なぜ復活したのか－」をテーマに、スミス研究の最新成果に基づき、近代的個人の自由と平等について思索した社会思想家としての新しいスミス像について講演が行われ、約220名が参加しました。

総括ディスカッションの様子

まず、アダム・スミスの『道徳感情論』と『国富論』の関係に関する研究で最も注目されている堂目卓生大阪大学大学院経済学研究科教授が、「スミスと現代－経済学の基礎としての人間研究－」と題して、スミスの自由主義は、人間と社会についての豊かな洞察に基づくものであったことについて講演しました。次に、ヨーロッパ啓蒙思想史とフランスを中心とした19世紀思想史の第一人者である安藤隆穂高等研究院副院長が、「スミスを読む近代フランス」と題し、スミスが展開した「個人と社会」という近代思想の基本問題を、フランス近代が独自に深めていく過程について、最新の研究成果を紹介しながら講演しました。

続いて、イギリス思想史研究の世界的第一人者である水田　洋本学名誉教授が、「アダム・スミスの自然法学」と題し、スミスが第２の主著において樹立しようとした自然法学とその現実意義について講演しました。最後に、総括ディスカッション「今、スミスをどう読むか」が行われ、スミスの自由主義及び現代の自由が抱える諸問題について、活発な質疑応答を交えながら議論しました。